

追跡!! SGU 第8回



～大切なのは使命感～

久木田 純 SGU招聘客員教授 インタビュー②

本学のスーパーグローバル
大学事業についてシリーズで
お伝えしている「追跡!! SGU」
。今回は、久木田純先生
へのインタビューの後半部分
をお伝えする。久木田先生
は、30年間国連職員として世
界各地で勤務され、定年退官
後本学のSGU事業施策のひ
とつである「国連・国際機関
へのゲートウェイ構想」の推
進に携わることとなった。2
017年度開設予定の大学院
「国連・外交コース」の授業

を担当するほか、「関学国際
機関人事センター」の中心と
して学生のサポートも行う。
国連・外交コースとは?

新聞総部記者(以下、新)
前回は久木田先生ご自身のお
話を伺いましたが、ここで4
月から本格的に始動する大学
院の「国連・外交コース」に
ついて教えてくださいませんか。
久木田純先生(以下、久)
構想の名前もある「ゲート
ウェイ」とは国連職員などに
なるための入り口や登竜門と
言う意味を持っています。国
連職員は従来の就職活動とは
違い、準備に長いプロセスを
要します。そのため、その間
に国連職員として必要な能力
を磨き、即戦力として活躍し
ていけるようなヤング・プロ
フェッショナルを育てていき
ます。

新:では、国連職員になるた
めに必要な能力とはどのよう
なものでしょうか。
久:大きく分けて5つです。
一つは英語などのコミュニ
ケーション力。これは当然、
世界を股にかけて活躍してい
く国連職員としては必須で
す。次に修士、博士レベルで
の専門的な知識、これはどの
分野でもかまいません。そし
て、若手のプロとしての実
社会における職務体験です。
これらは国連職員になるため
の3条件と言われています。
ですが、この他にも必要要素
が2つあります。一つは多
言語、多文化での経験です。
つまり海外でのボランティア
や留学経験といったように多
言語、多文化の状況での活動
生活経験と言ふ事です。これ
に加えもう一つ、一番大事な

要素があります。それは「使
命感」です。世界のために貢
献したいという気持ちがない
と、そもそも国連職員への志
望動機が成り立たないです
し、なった後にも様々な状況
の中で思うようにいかないこ
とも多々あります。そういつ
た時にそれでもやり抜くとい
う気持ちを持つためにも一番
大事な要素であると思ってい
ます。
新:なるほど。使命感が一番
の鍵となるんですね。
包括的なサポート体制

新:このコースでは学生への
サポート体制も厚くなって
いると聞きましたが、具体的
にどのような体制になっている
のでしょうか。
久:はい。このコースでは国
連を目指す学生を入学前、在
学中、卒業後といった様々な
段階でサポートし、国連職員
としての資質「国連コンピテ
ンシー」を総合的に獲得でき
るようになっていきます。まず
入学前、学部生段階では情
報共有のためのガイダンス
や「カウンセリング」を実施
して本人の志望動機などを高
めます。これは実際に始めて
おり(2016年2月現在、
カウンセリングを行う時間枠
は軒並み満杯状態になってい
ます。そして入学後は「コー
チング」を行い、より綿密な
指導や、インターン、ボラン
ティアの機会も提供しようと
考えています。さらに「卒業
後」も、能力査定や足りない
部分の強化を継続的に、
国連関連の仕事などの紹介も
したいと考えています。
新:なるほど。非常に体系的
ですね。これなら学生も安心

して能力向上に努められそう
ですね。
職務体験 カリキュラムに
新:先ほどおっしゃっていた
国連職員に必要な能力の一つ
に「職務体験」がありましたか
が、これはカリキュラムの中
に組み込まれているものでし
ょうか。
久:一口に「職務体験」とい
っても様々です。国際NGOや
青年海外協力隊、UN(国
連)ボランティアなどがあ
げられます。今回のこのコース
では、1年次の1月〜3月の
間にUNボランティアなどに
参加し、使命感や多文化体験
を高めることにしています。
これは職務体験にも繋がります。
海外の大学院で国連や外
交に特化したカリキュラムを
用意しているコースもありま
すが、日本国内では初となり
ます。
新:それはすごいですね。こ
うしてみると濃密なカリキュ
ラムになっていますね。
久:はい。そのためシステマ
ティックに進めていきたいと
考えています。私は以前から
「もっと多くの日本人が国連
で活躍できる」と考えていま
した。そのため11年前には「国
連フォーラム」を作って、現
役職員や国連でインターンを
した人にインタビューをした
り、個人的に国連を目指す人
へのコーチングをしてしまし
た。ただ、国連を目指すには
「長期的なキャリアプランを
立ててあきらめずに進む」必
要があります。国連退官後
こうした取り組みを大学単位
で包括的に実施できないかと
考えていた矢先に関学の構想
に出会ったというわけです。

求められる学生とは

新:このコースで学ぶ学生に
求めるものはありますか。
久:そうですね。先に挙げた
要素、とりわけ「使命感」を
持った学生に来て欲しいと思
います。これが一番大切なポ
イントです。関学に来て私がび
びりしたことがあります。それ
は「Mastery for Service」という
スクールモットーです。この言
葉はまさにこのコースに求め
られる人物像を言い当ててい
るの期待しています。国連で「働
く」という事は世界に奉仕す
るという事ですからね。

新:英語力も必要ですか。
久:もちろん必要ですが、一
定水準あれば大丈夫です。コ
ミュニケーションのための英
語をさらに伸ばしたいとい
う意識が大事です。

今後の展望

新:さて、4月から本格的に
始動するわけですが現在の意
気込みなどはいかがですか。
久:自信はあります。私自身
は今まで国連を目指す多くの
人を支援してきましたし、今回の
このコースでも国連・外交経験
を持つ教員陣を擁しています。
また、これまでカウンセリン
してきた関学の学生さんを見
ても本当に有難いと思います。
国連へのハードルは高いですが
決して不可能なものではあり
ません。ここまで体系的な取
組みが実現すれば、国連を目
指す人の日本での受け皿とな
る体制にしていきたいです。
新:関学から国連で活躍する
人材が生まれるのも遠くない
未来ですね。お忙しい中あり
がとうございました。
久:ありがとうございます。